

胡瓜の接木に関する研究（第2報）

砧木の種類と果実の形質について

田中 幸孝・浅井 繁利

（福岡県農業試験場園芸分場）

胡瓜の蔓割病対策として胡瓜の接木栽培の実用化を図る目的で比較的親和性の高い南瓜6品種を用いて接木栽培を行い成苗率、生育、着花性、収量、果家の形質、耐病性などについて検討したのでその結果を報告する。

試験方法

a) 供試品種

砧木 新土佐、平和親善、東京芳香、中村早生、打木甘栗、デリシヤス、

穂木 福岡交配1号

b) 播種期

砧木 2月5日

穂木 2月10日

c) 接木期

2月13日

d) 区制

1区20株2連性

e) 肥料

(1 a 当成分)

自根区 N—5.0kg P—3.0kg K—4.3kg

接木区 N—3.0kg P—2.1kg K—3.0kg

自根区に対して接木区の施肥量をNで4割、P、Kはそれぞれ3割減の施用量であるが、これは過去2カ

年間の栽培結果よりN3割減ではややN過多の感があつたので上記のような施肥設計で試験を行なつた。

f) 定植期

4月5日

成績及び考察

1) 成苗率

については中村早生が最もよくて91%、新土佐84%、デリシヤス83%、打木甘栗74%、東京芳香73%、最も成苗率の悪かつた平和親善砧区で71%を示したが、接木及び育苗技術が向上すればさらにより成績が得られるものと思考される。

2) 生育

第1表、第2表、第3表は生育調査の結果である。

第1表 蔓 長

項目	月日	月日	月日	月日	月日	月日
	4. 4.	4. 5.	4. 15.	4. 25.	5. 5.	5. 20.
砧木品種	cm	cm	cm	cm	cm	cm
自新平	40	88	106	144	186	257
土和	39	86	103	153	179	255
東中	38	84	103	148	183	253
打木	38	79	105	144	181	242
デリシヤス	43	88	105	151	172	243
	37	83	103	142	175	236
	37	82	100	150	170	232

第2表 葉 数

項目	月日	月日	月日	月日	月日	月日
	4. 4.	4. 5.	4. 15.	4. 25.	5. 5.	5. 20.
砧木品種	枚	枚	枚	枚	枚	枚
自新平	5.6	9.3	13.4	17.7	23.3	28.8
土和	5.7	9.6	13.8	18.2	24.7	28.3
東中	5.7	9.4	13.8	18.6	24.8	29.6
打木	5.7	9.7	13.9	18.5	24.3	28.5
デリシヤス	6.3	10.2	14.2	19.2	25.3	29.4
	5.9	9.5	13.8	18.6	24.8	28.6
	5.6	9.5	13.3	17.7	23.8	27.7

第3表 生育調査

項目	蔓長	節数	葉数	蔓重	葉重	側枝数	葉の大きさ	雌花数
	cm	枚	gm	gm	枚	cm	cm	
自新平	353	47	35.6	351	473	6.9	16.7	18.0
土和	322	46	36.3	359	440	4.9	15.9	19.1
東中	334	45	37.1	387	505	6.2	15.7	19.5
打木	316	46	35.4	340	423	4.9	15.5	18.5
デリシヤス	308	47	36.3	358	479	4.8	15.8	2.02
	304	46	35.7	351	452	4.3	15.6	17.4
	303	45	35.0	342	436	5.7	15.6	17.3

*30節葉の縦の長さ **6~35節 6月20日調

先づ蔓長についてみると5月中旬迄は各区間の差は少なく、6月20日試験打切時では自根区が最もよく伸びて353cm、ついで平和親善砧区、その他の区間の差は少なく自根区と最も伸びの劣つたデリシヤス砧区との間に約50cmの差がある。

節数は何れの区も45~47節で区間の差は少なく、また、葉数についても定植時より試験打切り時まで各区とも同じような調子で葉数増加を示し区間の差は余り認められなかつた。

生体重については全重、蔓重、葉重ともに平和親善砧区が最も大きな値を示し、その他の区間の差は少なく、東京芳香砧区が最も小さな値を示した。

側枝数、葉の大きさはともに自根区が大きな値を示しているがその差は少なく、雌花率についても各区間の差は少なかつた。

3) 収量

収量については第4表に示す如くである。

全収穫本数は平和親善、東京芳香砧区がよく、自根区及びその他の接木区は何れも26本台でその差は極めて少ない。また商品価値のある上物、中物の収穫本数についても平和親善、及び東京芳香砧区がよく、デリシヤス砧区は特は収量が劣つた。

第4表 収量調査

項目 砧木品種	上物		中物		下物 N	合計 N	上中物 曲り果 率
	N	W	N	W			
	本	gm	本	gm	本	本	%
自根	11.4	1,424	7.7	693	7.3	26.4	11.1
新土	10.7	1,307	7.7	704	7.8	26.1	15.5
平和	11.6	1,343	8.9	781	8.1	29.0	16.5
東京	12.4	1,565	8.0	720	7.9	28.2	15.4
中村	10.6	1,394	8.5	765	7.0	26.0	13.0
打木	9.6	1,330	8.5	786	7.6	26.0	18.1
デリ	8.8	1,197	8.0	730	6.9	26.1	13.3

4) 果実の形質

上中物の曲り果率は自根区が11.1%で最も少なく、接木区は何れも曲り果率が高く、打木甘栗砧区は18.1%、接木区のうち最も曲り果率の低いデリシャス砧区で13.3%であった。また、自根区に比較して接木区の果実は各区とも果実の長さの割合に肩張りが大きくて先の細くなつたものや果実の長さの割合に直径の大きなものが多数見受けられた。果型については第5表に示す如くである。

第5表 果型指数(最大直径/果長)

果型 (13/6~15/6.1物100果)

項目 砧木品種	月					5月上旬 平均	A型	B型	C型
	5.3	5.5	5.6	5.8	5.15				
	本	本	本	本	本	本	本	本	本
自根	0.153	0.156	0.168	0.159	0.149	93	1	6	
新土	0.176	0.177	0.182	0.178	0.167	73	6	21	
平和	0.169	0.173	0.167	0.170	0.146	73	10	17	
東京	0.174	0.176	0.200	0.183	0.153	68	17	15	
中村	0.191	0.186	0.190	0.189	0.159	69	14	17	
打木	0.193	0.170	0.177	0.180	0.150	71	10	19	
デリ	0.166	0.154	0.171	0.167	0.157	74	13	13	

5月3日調査の果型指数は自根区が最も小さく、従つて果実の形がよく、接木区は何れも大きな値を示し、中村早生、打木甘栗は特に大きな値を示した。5月上旬、即ち、収穫初期の果型指数は自根区が最も小さく、中村早生、東京芳香、打木甘栗砧の各区は大きな値を示した。ところが収穫最盛期以降になると収穫初期に比較して全体的に値は小さくなり果形はよくなつた。

A型: ~正常な果実

B型: ~果実の長さに比して直径が大きい

C型: ~果実の肩張りが大きく先が細い。

自根区の果実は93%が正常果でB、C型の占める割

合は僅か7%にすぎず、これに対して接木区は何れも30%前後がB及びC型の不正常果であつた。

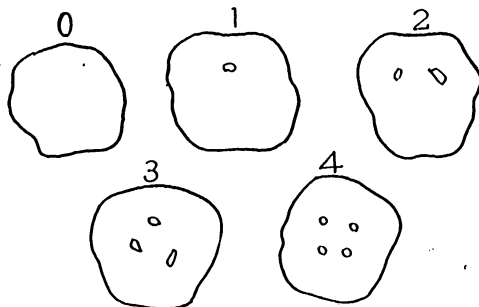
中スキについては第7表及び第1図に示す如くで、中スキ歩合は自根区が最も低く27.5%、接木区は何れも中スキ歩合が高く、中村早生は特に高く77.5%を示した。

果実の色及び病害についても調査を行なつたが区間の差は認められなかつた。

第6表 中スキの状態

砧木品種	程度				
	0	1	2	3	4
	%	%	%	%	%
自根	72.5	5.0	2.5	20.0	0
新土	32.5	20.0	12.5	35.0	0
平和	40.0	15.0	12.5	32.5	0
東京	47.5	7.5	10.0	32.5	2.5
中村	22.5	25.0	10.0	10.0	12.5
打木	37.5	5.0	12.5	42.5	2.5
デリ	48.0	7.5	7.5	35.0	2.0

第1図 中スキの状態



数値は中スキ程度を示す(表6表と同じ)

むすび

胡瓜に対する実用砧木を檢定する目的で南瓜6品種を用いて接木試験を行なつた結果生育、収量については区間の差は少なく、むしろ果実の形質が問題で接木区は自根区に比較して曲り果率、不正常果率、中スキ果率ともに高く供試6品種のうち平和親善砧区が最もよかつたが果実の品質、形状等が自根区に劣る。これらは樹勢との関係がかなり大きいものと思われるので次年度は施肥量について検討を行う。